

離婚の思想文化史：  
絆をほどいて：  
第十四回

離婚増加をどう説明するか：  
1870年代-1990年代



Princess Margaret  
Peter Townsend



Roddy Llewellyn  
1973



Antony  
Armstrong-  
Jones 1960

# 離婚：社会学・社会心理学的見方

## ◎ 社会病理

- 社会・経済変化が家族・結婚にもたらす影響
- 社会・経済変化？  
例 工業化、都市化、脱宗教化、  
道徳観の変化、結婚・離婚法の変化
- 家族・結婚にもたらす影響？  
例 自殺

## ◎ 女性解放＋女性の就職→女性による離婚請求の増加

## ◎ 離婚理由

女性の就職＋離婚法の変化

配偶者の寿命、結婚への期待、離婚体験記、離婚アレルギー減退、  
離婚が離婚を産む連鎖

↑

複雑な事象への単純化した理解

# 1870-1990をターゲット

- ◎ 各国での離婚率傾向が似たパターン
  - 60年に向かって右肩上がり
  - 60-80年に急上昇
  - 80年以降も右肩上がり別居期間を設定
- ◎ 離婚率は、  
経済、社会構造、文化風土、人口増減 と関係する
- ◎ 三時期区分
  - (1)1870 ～1917：離婚率は高くない、着実に上昇
  - (2) 1918 ～1960：全体的な増加
  - (3) 1960 以降：急速な増加

# 1870 ~ 1917 (1)

◎ 結婚生活束縛のゆるみ＋結婚期待値の高まり

◎ 経済的拘束のゆるみ

■ 専業主婦の誕生(19世紀後半)

- 「女性の空間」家事、食事、育児
- 夫の生産活動への補完機能をもつ

◎ 離婚事由

- 夫の義務＝家族の経済的維持
- 妻の義務＝家事を行う

これらの果たさない

# 1870 ~ 1917 (2)

- 女性の経済進出←人類史上初
    - 教育、育児、事務、売り子
  - 妻の所有権への認知
    - 妻の労働報酬は妻のもの
    - 離婚しても妻の所有権は保障
- 例 フランス
- 1881年 女性が貯金通帳を持てる
  - 1893年 所有物の単独自由裁量権
  - 1907年 妻の報酬は妻に帰属

# 1870 ~ 1917 (3)

- ◎ 結婚期待値増加
  - 法による離婚事由拡大→期待値のさらなる増大
- ◎ 大衆消費社会の誕生
  - 「供与」「養う」という概念が、生活スタイルに連動
- ◎ 破綻と離婚
  - 妻の経済的自立→暴力・遺棄は夫の特権でなくなる
  - 妻への法的擁護→暴力・遺棄にかわる「法的措置」を握る
  - 離婚による保障の獲得：財産分配、離婚手当、親権、再婚権  
例 イギリス
    - 1857年 夫からの離婚手当、平等な親権

# 1870 ~ 1917 (4)

## ◎ 離婚の利点

- 相手とのしがらみが消える
- 再婚の権利が入る→別居よりも離婚

## ◎ 離婚の欠点

- 費用がかさむ
- 裁判に時間がかかる

例

カリフォルニア

農民14%、熟練・未熟練工52%、中産・上流階級17%

イングランド

中産階級59%、労働者22%

- スティグマ

「邪悪、弱さ、敗北」

# 1918 ~ 1960

- ◎ 離婚の民主化
  - 法手続に補助金→労働者階級離婚増加
- ◎ 女性の就業機会増加
- ◎ 離婚は個人的決断。社会は関与しない
- ◎ バックラッシュ
  - 第二次大戦（国家総力戦）後は家族への執着

# 1960年以降の離婚

## ◎ 感情的絆の強調

- ロマンティックな愛、激情、性的満足
- ×居心地のよい仲間
  - 感情夫婦関係本、夫婦カウンセリング
  - 離婚映画(Kramer vs. Karmer)

## ◎ 1970年代の非スティグマ化

- 離婚経験者レーガンが米大統領

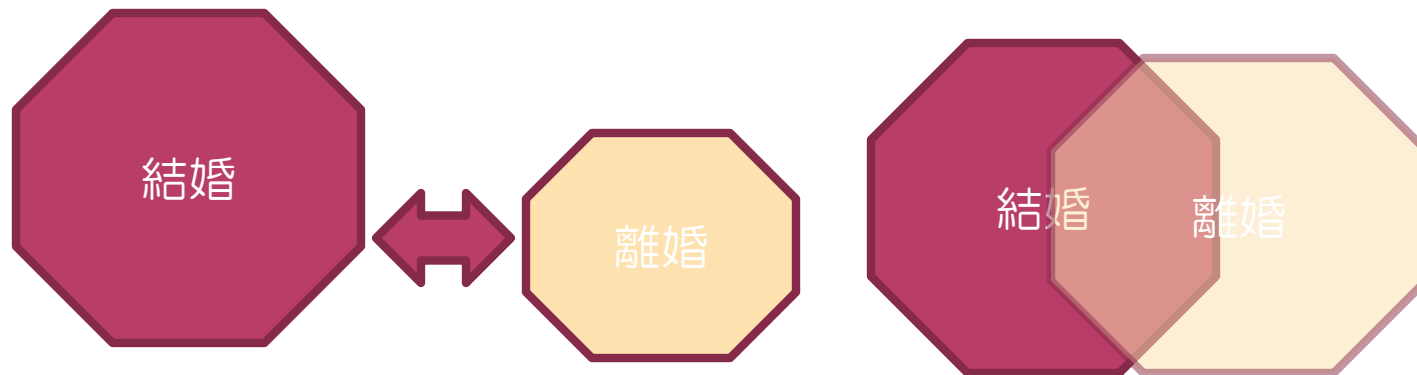
## ◎ 同権が不平等を生む

- 夫の過失でも財産は均等分配
- 元妻への扶養手当が滞る→「離婚貧乏」

親類のネットワークから外れても生活できる

# 離婚の未来

## ○ 離婚は増え続けるか？



- 結婚→離婚→再婚の連鎖
- 離婚以外の解消手段（最初から同棲）

# 結論

- 離婚は歴史事象、歴史の決定軸とからまりあっている
  - ○ 時代、国政、地域、国勢、民衆圧力、  
＋宗教感覚
  - × 本性的 →死亡年齢高齢化の代替制度

# 講義内容

- ◎ 1. カトリックとプロテスタント
- ◎ 2. 17世紀イングランドとニューイングランド
- ◎ 3. 世俗化、啓蒙主義、フランス革命
- ◎ 4. 近代初期の社会における正式の離婚と非公式の離婚
- ◎ 5. 結婚挫折の意味とその文脈
- ◎ 6. 19世紀：自由主義とその反動
- ◎ 7. 社会問題としての離婚：1850年-1914年
- ◎ 8. 20世紀と大量離婚の勃興
- ◎ 9. 離婚増加をどう説明するか：1870年代-1990年代